

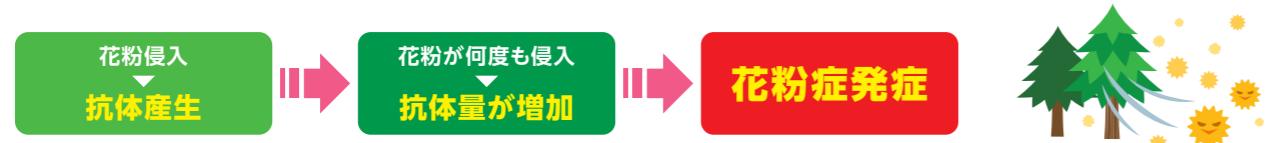
花粉症対策

花粉症は、くしゃみ・鼻水・目のかゆみ・だるさ・不眠・集中力低下などを引き起こし、仕事の生産性を大きく低下させます。今回は毎年多くの方の悩みの種となる花粉症の原因と予防方法についてご紹介します。

参考:「花粉症対策」(環境省/厚生労働省) (<https://www.env.go.jp/content/000194676.pdf>)を加工して作成

花粉症が発症する原因は?

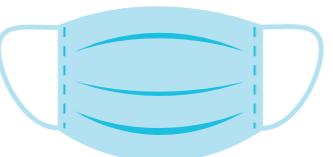
花粉症は花粉に対するアレルギーで、花粉が体内に入ると体が異物と認識し抗体を作ります。数年～数十年をかけて抗体の量が増加すると、くしゃみや鼻水などの症状が出現するようになります。



花粉症の予防方法

1 花粉を避ける

- ✓ 顔にフィットするマスク、メガネを装着する
- ✓ 花粉飛散の多い時間帯(朝前後と夕方)の外出を避ける
- ✓ 外出を避けるため、テレワークの活用を検討する



2 花粉を室内に持ち込まない

- ✓ 花粉が付きにくく露出の少ない服装を心がける
- ✓ 手洗い、うがい、洗顔、洗髪で花粉を落とす
- ✓ 換気方法を工夫する(窓を開ける幅を狭くする等)
- ✓ 洗濯物や布団の外干しを控える



花粉症対策の詳細は
下記のQRコードより
ご確認ください。

政府の花粉症対策3本柱 (2023年5月30日花粉症に関する関係閣僚会議決定)

| | | |
|---------|---|--------------------------------|
| 発生源対策 | ●スギ人工林の伐採・植替え等の加速化 ●花粉の少ない苗木の生産拡大 | ●スギ材需要の拡大 ●林業の生産性向上及び労働力の確保 |
| 飛散対策 | ●スギ花粉飛散量の予測精度向上支援 | ●スギ花粉の飛散防止 |
| 発症・曝露対策 | ●花粉症の治療・治療薬増産、研究開発等 ●花粉症予防行動の周知、企業等の取組推進 | ●花粉対策に資する認証制度や 製品の普及・啓発 |



決められた燃料以外は使用するべからず

エンジンは決められた燃料以外の物を使用すると異常な排ガスで作業環境を悪化させたり、各部の故障や焼付き等が発生し、作業効率が低下しますので使用しないでください。



レンタルのニッケン

ホームページでも最新情報を
お届けしています。是非ご覧ください。



レンタルのニッケン

検索

安全ニュースで取り上げて欲しい題材や
ご意見ご要望などございましたらeメールをご活用ください

e-mail: nikken@rental.co.jp

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

●レンタルのニッケン

お客様の安全作業のために。

安全ニュース

Safety news

目次

特集 EX・DX・省人省力化

- 地球温暖化による影響
- GX(グリーントランスフォーメーション)について
- ICT施工導入等によるCO₂排出量削減
- 花粉症対策

2026年
3月号の予告

新規入場者

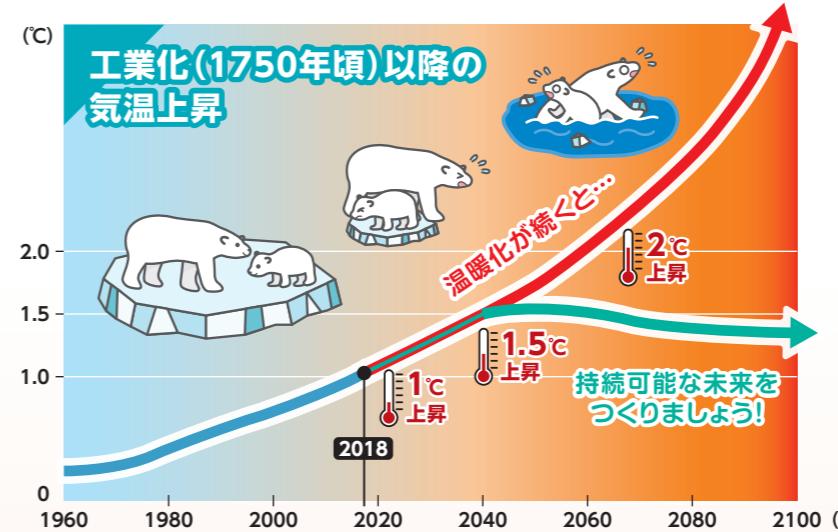
編集・発行
株式会社レンタルのニッケン
安全部/営業支援部

お問い合わせ
TEL.03-6775-7811

参考:「おしゃれ!地球温暖化」(環境省) (<https://www.env.go.jp/content/900441920.pdf>)、
「加速する気候変動 私たちの未来のために今できること」(環境省) (<https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/feature1/20250625.html>)を加工して作成

地球温暖化による影響

気象庁は、2024年の日本の平均気温が1898年の統計開始以降で最も高くなったと発表しました。地球温暖化が進む中、持続可能な未来を実現するためには私たち一人一人の取り組みが必要です。



日本の気候変動

平均気温
+1.40°C

猛暑日
3.8倍

猛烈な雨
1.7倍

気温上昇による世界の影響

北極海の海氷面積が減少

- ホッキョクグマなどの生息地がなくなる。
- 1年当たりの減少量は北海道の面積(8.3万km²)に匹敵。



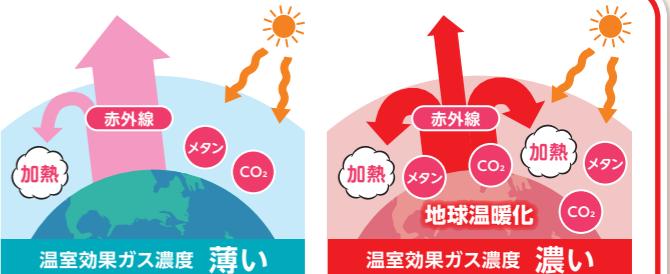
海面水位上昇による国土消失の危機

- 小さな島に住む人々は特に影響が大きい。

Point!

温室効果ガスが赤外線を吸収し、
地球を温める。

太陽の熱エネルギーにより地球の表面が温められると、地表面から
熱が赤外線として放出されます。二酸化炭素(CO₂)やメタン(CH₄)
などの温室効果ガスはこの赤外線を吸収する性質を持っており、熱が宇宙
に逃れることを防ぎ大気を温めているのです。



★ホームページにも掲載しております!是非ご覧ください。★

GX(グリーントランスマネジメント)について

参考:「GX(グリーントランスマネジメント)」(政府広報オンライン) (<https://www.gov-online.go.jp/article/202410/tv-5567.html>)を加工して作成

GX(グリーントランスマネジメント)とは、**温室効果ガスの排出削減と経済成長の両立に向けた社会変革の取り組み**をいいます。日本はGXの実現に向けて、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目指した取り組みを進めています。

建設機械におけるGXの重要性

参考:「GX建設機械認定制度 認定一覧[令和7年11月現在]」(国土交通省) (<https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/content/001968521.pdf>)を加工して作成

建設機械の脱炭素化は、建設業界からカーボンニュートラルの達成に向けた施工時のCO₂排出削減として着目されています。

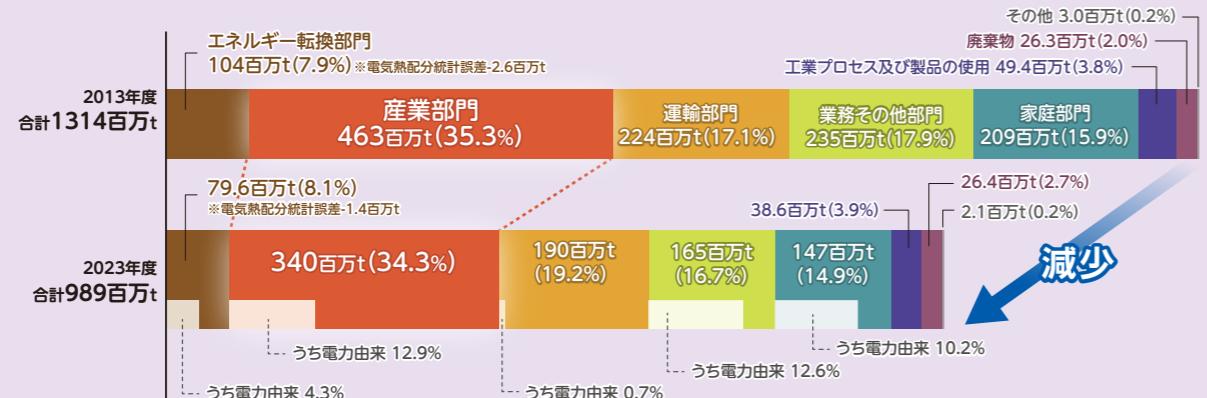
国内では、電動や水素燃料など、稼働時にCO₂が無排出と認められる建設機械を「**GX建設機械**」として認定する制度を国土交通省が開始しました。(2025年11月時点で23型式を認定済[※])

※参考:「GX建設機械認定制度 認定一覧[令和7年11月現在]」(国土交通省) (<https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/content/001968521.pdf>)より



日本の部門別 CO₂排出量(電気・熱配分後)

出典:国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィスのデータ
「2023年度の我が国の温室効果ガス排出量及び吸収量について(別添2 2023年度の温室効果ガス排出量及び吸収量(詳細))」を加工して作成



日本全体のCO₂排出量は減少傾向にあります。産業部門(建設業含む)も排出量を減らしていますが、電力由来の排出割合は比較的少なく、他の要因による排出が多いのが特徴です。そのため、さらなる削減には産業部門自身の取り組みが重要と考えられます。

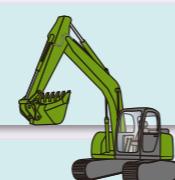
建設機械電動化がもたらす新たな付加価値

参考:「GX建設機械認定制度 認定一覧[令和7年11月現在]」(国土交通省) (<https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/content/001968521.pdf>)を加工して作成

建設機械の電動化によりCO₂排出量削減に加え、音・振動の減少、排ガスレス化や静粛化による作業範囲拡大(閉鎖空間、夜間帯等)が可能になると考えられています。

作業環境改善

- 電動化によりエンジンを使わなくなり、**作業音や振動が減少する**。



作業範囲拡大

- 排ガスを出さないため、室内のような**閉鎖空間での作業が可能**に。
- エンジンレスで静粛性が担保されるため、苦情減少など**夜間帯の作業が円滑**に。

メンテナンスのしやすさ

- 電動化により**搭載部品が減少**することで日常点検項目が減少し、**点検時間が短縮**。
- エンジンオイルなど**定期的に交換が必要な部品が減少**し、整備頻度、時間が短縮。

ICT施工導入等によるCO₂排出量削減

参考:「GX建設機械認定制度 認定一覧[令和7年11月現在]」(国土交通省) (<https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/content/001968521.pdf>)を加工して作成

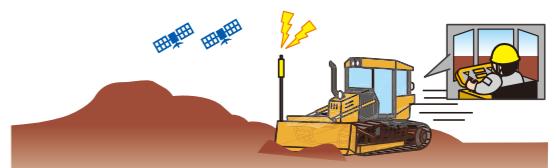
「**ICT施工**」とは建設生産プロセスの全ての段階でICTを活用し、施工現場での生産性及び品質向上を図る取り組みです。ICT施工は2025年度より、一部の工種を対象に、使用の原則化が予定されています。その他のICT施工対象工種についても、順次原則化が検討されています。

ドローン等による3次元測量



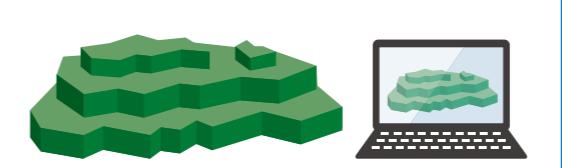
ドローン等の写真測量等により、短時間で面的(高密度)な3次元測量を実施

ICT建設機械による施工



3次元設計データとGPSの連動等により、ICT建設機械を自動制御し、建設現場のIoTを実施

3次元データによる設計・施工計画



これまでより少ない人数・工事日数で同じ工事量の実施を実現

ICT検査の省力化



ドローン等による3次元測量を活用した検査等により、出来形の書類が不要となり、検査項目が半減

Topics

日本の新たな温室効果ガス削減目標(NDC)

参考:「日本の新たな温室効果ガス削減目標(NDC)とGX推進政策について」(環境省 脱炭素ポータル) (https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/topics/20250314-topic-69.html)を加工して作成

NDC(Nationally Determined Contribution)(=国が決定する貢献)とは、各国が5年毎に提出・更新する温室効果ガスの排出削減目標です。これにより、中長期的な予見可能性を高め、脱炭素と経済成長の同時実現に向け、GX投資を加速させていきます。

2030年度において、温室効果ガス排出量を**半分近く削減**(2013年度比)することを目指しています。

